

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月18日

事業所名 ばすてる

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	パーティションで区切るなど	個室スペース、個別に過ごせる工夫が必要。 →パーティションや TENT を新たに購入し落ち着いて過ごせる環境を整える。
	2 職員の配置数は適切である	8	1	送迎業務の見直しなど改善があった。	基準は満たしていても実際の業務に人数的余裕があるかどうかは別である為、業務の内容を見直す必要はある。 →連絡ノートのデジタル化など、支援時間帯に手を取られないための対策を検討する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	0	今年度移転をし、バリアフリーな空間になっている。	充分とは言えない部分もある。(玄関に段差あり) →車いす用スロープは裏手から入っていたか形になる。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0	支援会議等、意見を出し合い、話し合える場がある。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	・アンケートを元に次年度の計画を立てている。 ・アンケート結果が周知されており、改善を心掛けている。	・連絡帳やそれ以外のツールの活用、親子行事の企画開催などで保護者の声が聞ける機会がもっとあれば良いと感じる。 →保護者説明会・交流会の企画などもっと活発に行なっている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	ばすてる新聞、ホームページで公表。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	5		未実施 →実施に向けた体制作りを法人として検討中。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	・毎月、権利擁護研修や動画研修を行っている。 ・法人に届く外部研修情報を、情報伝達ツールを通して知ることができている。	・外部講師等を招いた法人全体の研修の機会があると良い。 →現在は内部職員による講師ではあるが、法人内研修も随時実施しているので、まずは参加機会を増やす。外部研修についてはキャリアパスに基づいた研修計画があり、必要な研修を随時受講するしくみがある。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	・定期的なモニタリング、計画立案・検討会議を行っている。 ・保護者と年2回の面談、日々の保護者の方とのやり取りで、ニーズや課題の把握を行い、計画に反映している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	個別のサポートブックを活用。	モニタリング会議等でサポートブックを開く、加筆修正していくことを職員全員の共通認識にする。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	・季節を感じられるような活動を考えている。 ・毎月、児童、職員にやってみたい事、行ってみたい所など募り、担当職員を中心に相談しながら進めている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	児童や保護者のニーズも取り入れながら、季節にちなんだ活動、社会経験等を入れるよう心掛けている。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	1	・休日、長期休みと平日は活動を分けている。 ・保護者からの要望も踏まえ準備をしている。	支援計画に基づいて支援を行っている。平日は個別での活動を中心に、長期休暇や休日は外出や調理等、集団での活動を実施している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで放課後等デイサービス計画を作成している	9	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	・担当者が活動案を作成し、支援開始前に確認。 ・朝礼、午後のミーティングで、前日の振り返りを行う。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2	・記録を書きながら、その日の気づきや問題となったこと、連絡帳や学校からの情報を共有する。また、翌日の朝礼でも改めて発信・周知する。	・時間がなく当日のうちには共有できない(翌日になる)。 ・個人間での会話は共有が充分ではない。 →ヒヤリハットや特別留意すべき事項を書くための用紙を付けて、ミーティングで共有したりあとで見返したりできるように始めている。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	・支援計画に基づいた記録と、日々の記録。 ・複数の職員の見、記録に残し、課題があれば周知・検証し、改善に向けて進めている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0	計画が遂行されているかを、毎月振り返り、半年に一回職員全員で見直しをしている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている ・自立支援と日常生活の充実のための活動 ・創作活動 ・地域交流の機会の提供 ・余暇の提供	8	1	基本活動を組み合わせ、支援をしている。	・ガイドラインがまだ頭に入っていない部分もあるので勉強会を設ける必要がある。 ・ガイドラインそのものを把握する為の取り組みが事業所として必要だと思う。 →ガイドラインやマニュアルなどを共通言語にできるようにするため、次年度から勉強会を実施する。	
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	会議は基本児発管が参加。		
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	0	学校によっては、下校時刻をお知らせ頂いている。		
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	4	医療的ケア児の受入なし	該当なし	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	2	今年度は無し。 入学児童がいる場合には行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	2	・自事業所は主に小学生が対象であるため提供していない。 ・求められれば提供できるようにしている。 ・小学生対象の事業所の為該当しない。	該当なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4		外部研修は受講しているが児童発達支援の専門機関のものは近年受講していないので、研修計画に取り入れる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9	0	・毎年放課後児童クラブとハロウィン交流会を行っている。 ・朝酌児童クラブとの季節行事の交流がある。 ・朝酌小学校の児童クラブさんとのハロウィン交流会を実施。体育館でゲーム等行い交流を持っている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	6	自立支援協議会自体が何年も開催されていないと聞いたことがある。それにかわるものがある必要なら参加すべきだと思う。	法人として地域福祉計画に参画するなど、地域との接点を活かしながら自立支援に取り組み。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・送迎時、連絡ノート、電話等を活用し、様子を伝えたり、保護者さんからの質問にお答えしている。 ・小さなことでも伝えることを心掛けている。また、保護者さんから聞いてみるという姿勢も持っていたい。	日々の様子を伝える機会は少ないが児童の発達の状況や課題、家庭や学校での様子や進路などが共通理解できているかどうかは分からない。学校や相談員との連携がもっと必要だと思う。 一ヶ会議だけでなく、関係機関とも必要に応じて気づきを共有し、統一した支援ができるよう、協力体制をつくっていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	4	5	・面談時に要望を伺ったり、困った事をお聞きした時には、職員間で話し合い、お答えする事もある。	ペアレントトレーニングというもの、専門的に学んでいない。 一基礎的な部分について職員全体で学びの機会を設ける。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	説明は適宜行っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	・面談や、ご自宅へ送った際にお話ができるときにさせてもらっている。 ・こちらの一方的な意見にならないよう、保護者の方の気持ちを考えながら関わろうと心掛けている。	保護者だけでなく学校や相談員との情報共有がもっと必要だと思う。 一必要に応じて学校や相談員とも話をし、適切な援助を行う。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	4	・今年度は出来なかつた為、来年度は実施できるように計画を立てたい。 ・親子登山があり、保護者同士の交流の機会があった。 ・保護者同士のつながりを支援するまでは、出来ていないと思う。	来年度は親子行事だけでなく、保護者の交流の場を実施できるように計画を立てる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	苦情解決については、事業所に窓口を設けており、苦情解決責任者、第三者委員を選任している。苦情件数については広報紙つばきにあげている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	法人のホームページ、フェイスブック、インスタグラムの他、マチコミやばすてる新聞など、また日頃からこまめに連絡をするよう心掛けている。	ばすてる新聞も、紙面以外の方法でも発信できたらよいと思う。 一連絡帳のデジタル化を検討する中で、同じように紙媒体に依らない発信ができるか検討する。
	35	個人情報に十分注意している	9	0	氏名、写真、映像の取り扱いに関して、本人、家族それぞれの場合の可、否を周知している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	・児童の特性に合わせたコミュニケーションをとっている。 ・送迎時やノートなどで詳しく説明できるよう、心がけている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	5	・地域ピカピカ大作戦として、ゴミ拾いを行っている。しかし、地域の方々を招待するといったかたちはできていない。 ・それが必要だと感じられない。	・地域交流の必要性など職員全体で改めて共有する。 ・招待は難しいが、様々な形で地域と交わるような活動を行っているので、それらを一層活性化していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	2	・各種マニュアルはある。面談や契約時に、内容をお伝えしている。	充分でない。法人のマニュアルの全てがばすてるの児童、建屋等全てに当てはまるものでないと思うそれを検証できていない。 一移転に伴い、改めて内容を吟味し、放デイ事業所に即したものととのえて活用する。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	4	例年、火災、地震の避難訓練が行われている。	今年度は単独での訓練ができていない。 一次年度、早い段階で実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	・定期的な権利擁護会議があることで、様々な意見を出し合い、より良い方法を検討することができている。 ・法人内では虐待防止委員会を設置し、事業所からも参加している。事業所内では、月に一回権利擁護会議を設けている。チェックリストを毎月行っている。 ・定期的な会議を行って意見交換ができています。 ・サボカシ視聴、虐待防止委員会でのチェックリストやそれに基づく話し合いを定期的に行っている。	法人全体で意見交換の場があれば尚良いと感じる。 一法人の虐待防止・権利擁護委員会にて検討してもらおう。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0	・保護者や相談員と相談し、必要性のある時には、個別支援計画に記載している。 ・虐待防止、身体拘束等について振り返る機会を設けている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	該当児童なし。	該当なし(ある場合は保護者を通じて対応の仕方を指示いただきたい)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	2	・ヒヤリハットの報告提出を含めて上手く機能していない。 ・いつもと違う事があれば、職員間で情報を共有し事故防止に努めている。 ・すぐに会議を開き、対策等の話し合いはできている。 ・事例集はあると思うが見たことがない。	ヒヤリハットの報告提出を含めて上手く機能していない。 一ヒヤリハットや特別留意すべき事項を書くための用紙を設けて、ミーティングで共有したりあとで見返したりできるようにし始めている。それらに基づいた事例も新たに付け加え、確認できるようにする。